

■ Vol.1 (2009 年)

- No. 1 ARDS
- No. 2 Sepsis
- No. 3 AKI
- No. 4 不整脈

■ Vol.2 (2010 年)

- No. 1 重症感染症
- No. 2 CRRT
- No. 3 外傷
- No. 4 PICU

■ Intensivist 第 5 号 “重症感染症” 特集をお届けいたします。

1 月下旬でしたか、「第 5 号、書店で見つからないのですが…」と、電話をいただいてしまいました。第 4 号にて、発行が 1 か月遅れてしまい、多くの方々に迷惑をおかけし、今後こうした遅れを出さないよう、よりいっそう努めてまいります、とお詫びしたそばからの遅れ。多くの方々に、改めまして、お詫び申し上げます。

■ “empiric therapy” という言葉を理解するうえで、『ワシントンマニュアル、第 11 版』第 13 章「感染症の治療」の訳者、藤田芳郎氏の訳注はとて参考になります。以下にそのあらましを紹介いたします。

経験的治療と訳されることが多い “empiric” だが、英和辞典によると、「経験に頼る人、経験一方のやぶ医者、いかさま師」とある。しかし、医学の分野で使われる意味はその逆に「臨床感染症学の知識とその地域の疫学を用いて原因微生物を予測、推定して治療すること」。それ故、推定治療と訳すことにした。

この言葉の持つ意味の重要さがよくわかりました。

広告一覧 (五十音順)

医学書院……176, 208
エドワーズライフサイエンス……表 4
克誠堂出版……14
コンバテック ジャパン……56
シェリング・プラウ……i
スミスメディカル・ジャパン……表 2
大正富山医薬品……表 3
日本医書出版協会……130
日本製薬……46

特集：CRRT

Intensivist 第 3 号 (Vol.1 No.3) の特集「AKI (急性腎臓病)」では、“保存的診療編”として、AKI の基本的な概念と病態生理を解説、そのうえで、集中治療医が臨床で悩むトピックスに焦点を当て、日常臨床に欠かせない診断・保存的治療についての標準的な指針を示しました。本特集「CRRT」では、その際に触れなかった血液浄化に焦点を当てます。

この数年、AKI における定義や CRRT についてグローバルスタンダードを統一化しようとする流れが世界各国で広がってきています。日本でも集中治療領域で血液浄化が積極的にに行われてきているものの、コンセンサスあるいはガイドラインなど標準化された治療法がないのが現状です。本特集では、日本からすばらしい研究成果を世界に発信できることを期待し、世界各国で CRRT がどのようなプラクティスでなされているのか、現状でのエビデンスはどの程度まであるのかを、まず認識することから始めます。

1. はじめに「私の血液浄化考」
東京慈恵会医科大学 麻酔科 集中治療部 内野 滋彦
2. 総説：CRRT の原理
聖マリアンナ医科大学病院 腎臓高血圧内科 谷澤 雅彦・柴垣 有吾
3. 開始・中止の適応
岡山大学病院 集中治療部 森松 博史
4. CRRT vs. IIRRT vs. SLED
和歌山県立医科大学 救急集中治療部・救命救急センター 中 敏夫
5. 血液浄化量 (置換・透析流量)
中 敏夫
6. AKI に対する CRRT モード、膜、前置換/後置換
滋賀医科大学 救急・集中治療部 五月女 隆男
7. 抗凝固薬
岡山大学医学部 麻酔・蘇生学 集中治療部 江木 盛時
8. ダブルルーメンカテーテル-1 (種類、特徴、挿入部位)
大分大学医学部 総合内科学第二講座 中田 健・友 雅司
9. ダブルルーメンカテーテル-2 (感染予防・管理)
東海大学医学部 総合内科 柳 秀高
10. CRRT 中の栄養・電解質
慶應義塾大学医学部 腎臓・内分泌・代謝内科 門川 俊明
11. CRRT 中の薬物投与量
東京大学医学部附属病院 薬剤部 山本 武人・大野 能之・鈴木 洋史
東京大学医学部附属病院・22 世紀医療センター 薬理動態学 樋坂 章博
12. CRRT のトラブルシューティング
聖マリアンナ医科大学 クリニカルエンジニア部 矢田 哲康
済生会横浜市東部病院 臨床工学部 森實 雅司
日本大学医学部附属板橋病院 臨床工学技士室 中川 富美子
聖マリアンナ医科大学 救急医学 藤谷 茂樹
13. simulation case study
東北大学大学院 腎高血圧内分泌学分野・医化学分野 相馬 友和
14. sepsis に対する non-renal indication としての CRRT
内野 滋彦
【コラム】PMX-EUPHAS study について
森松 博史
15. CRRT の国際標準
内野 滋彦
16. 小児における (C) RRT
静岡県立こども病院 腎臓内科 北山 浩嗣
【コラム】造影剤と RRT
東京大学医学部附属病院 腎臓内分分泌内科 河原崎 宏雄・花房 規男
17. 日本の集中治療医へのメッセージ
Department of Critical Care Medicine, University of Pittsburgh John Kellum

※誌面の都合により、内容が変わることがあります。

Vol.2 No. 1 2010 年 1 月 1 日発行 (年 4 回 (1,4,7,10 月 1 日) 発行)

ISBN978-4-89592-628-7

INTENSIVIST

1 部定価 (本体 4,600 円+税)
年々め予約購読料 18,480 円
(4 冊 税込み・送料弊社負担)

発行者 若松 博

発行所 株式会社 メディカル・サイエンス・インターナショナル

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-28-36

電話：編集部 03-5804-6056 FAX：編集部 03-5804-6054

販売部 03-5804-6051 販売部 03-5804-6055

URL：http://www.meds.co.jp E-メール：icc@meds.co.jp

振替：東京 7-28572

印刷所 横山印刷株式会社 電話 03-3622-6161

広告取扱 メディカルブレイン 電話 [東京] 03-3814-5980

日本医学広告社 電話 [東京] 03-5226-2791

福田商店広告部 電話 [大阪] 06-6231-2773

【COPY】<社出版者著作権管理機構 委託出版物>本書の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつと事前に社出版者著作権管理機構 (電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@copy.or.jp) の許諾を得てください。

・本誌に掲載された著作物の複製・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込み、送信 (送信可能化権を含む) に関する許諾権は弊社が保有しております。